

## 編集後記

最近、国際熱核融合炉 ITER への関心がかなり高まっている。この時流に乗って、編集委員会でも、6月号に ITER-TBMに関する解説、夏ごろに座談会、秋ごろにトカマク炉実用化の小特集記事などを提供する予定である。ITERのサイトが決定すれば、投稿記事を書こうという会員の先生方や新たな企画を立案しようという編集委員も多く出てくるだろう。

それにしても、いまだにサイト決定がなされないのはどうしたのか。研究者の誰に聞いても状況はわからないと言う。要は、政府の役人の話し合いがうまく進まないのだそうだ。莫大な税金を投入する以上、この最終局面において政府や政治家が入ってくるのは至極当然である。しかしながら、ある政党の「EUが独自で建設するならば、日米韓のみで建設しよう」という動きは果たして正しいのかと疑問に思う。日本、EU、米国、ロシア、中国、韓国の6極が協力して進めるから意義があるのであって、それが半分になってしまったら、どれくらいのダメージになるか？ 分担

金や装置規模の問題はもちろんのこと、人的な国際交流が半分になってしまう。これはただけでない。直接 ITER に関係する研究者たちはこの動きをどう感じておられるか？

ITER や核融合研究の目的は、先進国というよりは、いまの発展途上国のエネルギー需要の急激な増加問題を克服するためとされる。ODAの削減要求がささやかれる中、日本国民の税金が世界のために使われようとしているのだから、是が非でもひとつにまとまった形でないといけない。

冒頭に関心が高まっているとは書いたが、実は、核融合研究者限定である。どう考えても一般市民にまで浸透しているとは言えない。これで ITER がフランスにもっていかれるようなことがあれば、日本には、何の核融合ブームも起こらないだろう。そうすると、核融合を志す子どもたちがいなくなる。せめて愛知万博にでも出品すべきだったんじゃないの？

(森下和功)

### プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副 会 長	山中 龍彦 藤原 正巳	常務理事	岡村 昇一 (総務委員長)
理 事	榎戸 武揚 (広報委員長) 際本 泰士 田辺 哲朗 二宮 博正 松岡 啓介 (企画委員長)	岡野 邦彦 佐藤浩之助 長 照二 (出版委員長) 畠山 力三 吉田 善章 (編集委員長) 藤山 寛	尾崎 章 (財務委員長) 田中 和夫 (プログラム委員長) 永見 正幸 堀岡 一彦 (広告委員長)		
監 事	長谷川 満				

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 吉田善章 (東大新領域)

エディター 関子秀樹 (九大)、関 昌弘 (原研)、田中雅慶 (核融合研)、西村博明 (阪大)、福山 淳 (京大)、藤山 寛 (長崎大)  
編集委員 相澤正満 (日大量科研)、安藤利得 (金沢大院理)、井深真治 (東工大院理工)、岩前 敦 (京大院工)、江角直道 (長野高専)、遠藤琢磨 (広大院工)、粕谷俊郎 (同志社大工)、菅野龍太郎 (核融合研)、近藤公伯 (阪大院工)、榊田 創 (産総研)、篠原俊二郎 (九大院総理工)、清水勝宏 (原研那珂)、下妻 隆 (核融合研)、鈴木 哲 (原研那珂)、鈴木千尋 (核融合研)、高杉恵一 (日大量子研)、力石浩孝 (核融合研)、波多江仰紀 (原研那珂)、服部邦彦 (東北大院工)、林康明 (京都工繊大)、檜垣浩之 (筑波大プラズマ)、松本和憲 (富山県大工)、南 貴司 (核融合研)、村上定義 (京大院工)、森下和功 (京大エネ理工研)、山本 靖 (京大エネ理工研)、湯上 登 (宇都宮大院工)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第81巻第4号

編集・発行

〒464-0075 名古屋千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3185

E-mail: jspf@nifs.ac.jp URL: http://www.jspf.or.jp/

印刷 株式会社荒川印刷

2005年(平成17年)4月25日

定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月、第1金曜日に開かれています。但し、第1金曜日が休日あるいは5日以降の場合はその前週の金曜日に開かれます。